

無名峰 727m

柵野側より

ポンポン山雑感

地形図「口坂本」

2017年12月19日

三鍋敏郎

柵野川沿いの国道 162 号線は道路工事中で片側通行。その片側通行終点手前の空き地が私たちの目的地であった。標高点 396mに車を停める。ガード下の柵野川を眺めるとコンクリートブロックが高く積まれて簡単には下りられない。上流に向かって少し歩くと、ガードレールの切れ目があり、落石や落木などの処理場らしく川に簡単に降りられた。川幅はそれほど広くはなく、瀬には露岩が点在している。水没した岩には苔が付着し滑りやすいが、何とか全員が渡渉する。的の尾根の北斜面にある小さな谷に取り付き登りだす。暫くは杉の植林帯である。ボコボコになった古いアルミの弁当箱が流れの岩に挟まっていたが、登山コースではないので森林作業員の落とし物であろう。

谷を登り切り尾根に向かうと自然林の歩きやすい尾根に乗る。尾根筋は大量の落ち葉が濡れてオレンジ色に見える。登るにしたがって落ち葉は徐々に積雪に覆われて見えなくなってきた。ピーク 518mの辺りは穏やかで広い尾根歩き。ピーク 561mとの鞍部辺りで北側を眺めると結藤谷の美しいV字ゾーンが見える。今年登った P743m「タケガダン」を源流とする谷である。穏やかな流れなので早春、雪解けの頃は面白いだろう。

ピーク 561m辺りから雪面にブルーインク色の色素が無数に滲んでいる。ヒサカキなどの青い実を食べた小鳥たちの排泄物だろうか。ヒサカキやソヨゴなどの低木が多少煩くなるが、ピーク 727mから派生する尾根に乗ると雪が深くなり障害は少なく歩きやすい。この尾根筋は樹林が大きく高いので林床まで光が届かず灌木などが発達しにくい環境なのだろう。

高度が上がるとブナの木が点在するようになるがブナの木はそれほど多くは無い。積雪は 15センチを超えるほどになるが、広く穏やかな尾根なので苦労なく歩ける。ウサギの足跡が斜面に長く続いている。それを追うようにキツネの足跡が登っている。途中で大きなクマの足跡が斜面を横切っていた。餌不足で冬眠できないクマの徘徊。727mの山頂が見えるあたりで降雪が激しくなり見通しが悪くなる。

ピーク 727m山頂はブナ交じりの自然林に囲まれた穏やかな台地である。風下でランチタイム。ここで本日の目的の三角点のある標高 778.6mの登頂を協議。778mのピークは簡単に踏めるが下山予定コースの尾根の地形が広く複雑で、降雪時は視界不良で迷走する恐れがあり危険。時間的にも無理だと判断。全員納得し同じ道を引き返す事にする。

★メンバー 佐々木・三鍋・ほか1名 ★コース 駐車場 9:45～P 578m 10:35 発 40～727m 11:55 発 12:16～509m 12:57～国道 13:40